



清澤満之 (1863年～1903年)
歴史的転換をなした清澤師の近代教学が、真宗同朋会運動へ結実していった

清澤満之は、徳川時代の浄土真宗というものが、まさにそうでした。徳川時代の本願寺教団というのは、幕藩体制に奉仕したのです。権力

人間の主体性を壊すような宗教もあります。徳川時代の浄土真宗というものが、まさにそうでした。徳川時代の本願寺教団というのは、幕藩体制に奉仕したのです。権力

には、暁鳥敏、佐々木月樵、多田鼎、後に赤沼智善、山辺習学、曾我量深、金子大栄等が学んだ。

宗門の辿ってきた長い歴史の中でも、教権の強い統制のもとにあった近世真宗教学は江戸幕府における、藩という封建領主制においての江戸宗学であった。

策、神権的天皇制の成立という中で明治仏教は深刻な危機に陥り、やがては「先祖崇拜」「道德的宗教」という「民族儀礼の執行機関」となり、浄土真宗として衰退の一途をたどりはじめた。

ここに、明治の真宗大谷派の歴史的転換がなされ、近代教学が確立されていくのである。

御遠忌テーマ 「今、いのちがあなたを生きている」
教区教化テーマ 「あなたは、与えられたいのちとどう向き合う？」
教化本部通信 【第41回】
真宗門徒の生活 朝夕のおつとめをしましょう・声にだしてお念仏を申しましょう
を回復しよう すずんでお寺の法座に身を運びましょう・報恩講を大切にお迎えしましょう

前号に引き続き、「真宗同朋会運動50年に向けて」をテーマにした運動の検証を掲載します。本号は「興り」を中心に、真人社結成に至る動きと、その思想的な根拠となる清沢満之師についてふれています。また、今回の「点描」は、真宗同朋会運動が発足前の1958年(昭和33)、北海道教区青少年教化委員会発足について掲載します。

真人社の結成は、蓮如上人四百五十回御遠忌が間近に迫り、その勤め方に対する意見の相違に端を発して、昭和二年一月宮谷法含師辞任の後就任した饒含雄宗務総長時の五部長一斉辞職(同年二月)から始まった。正式な結成式は、翌年一月二五日札幌邸横の六条道場仏願寺にて行われたと記されてある。

宗祖親覺聖人七百五十四御遠忌
お待ち受け総上山
▼奉仕団 12月▲
第11組 後期教習 12/254 14名
第13組 高徳寺御遠忌 12/254 11名
座談会でたくさん語り合いました。
参加者も皆知合いであり、和やかに話が盛り上がりました。

真宗同朋会運動五十年に向けて

その検証 興り(一)

教化本部 古卿 誠幸